

畜産みやぎ

題字
宮城県知事 山本 壯一郎

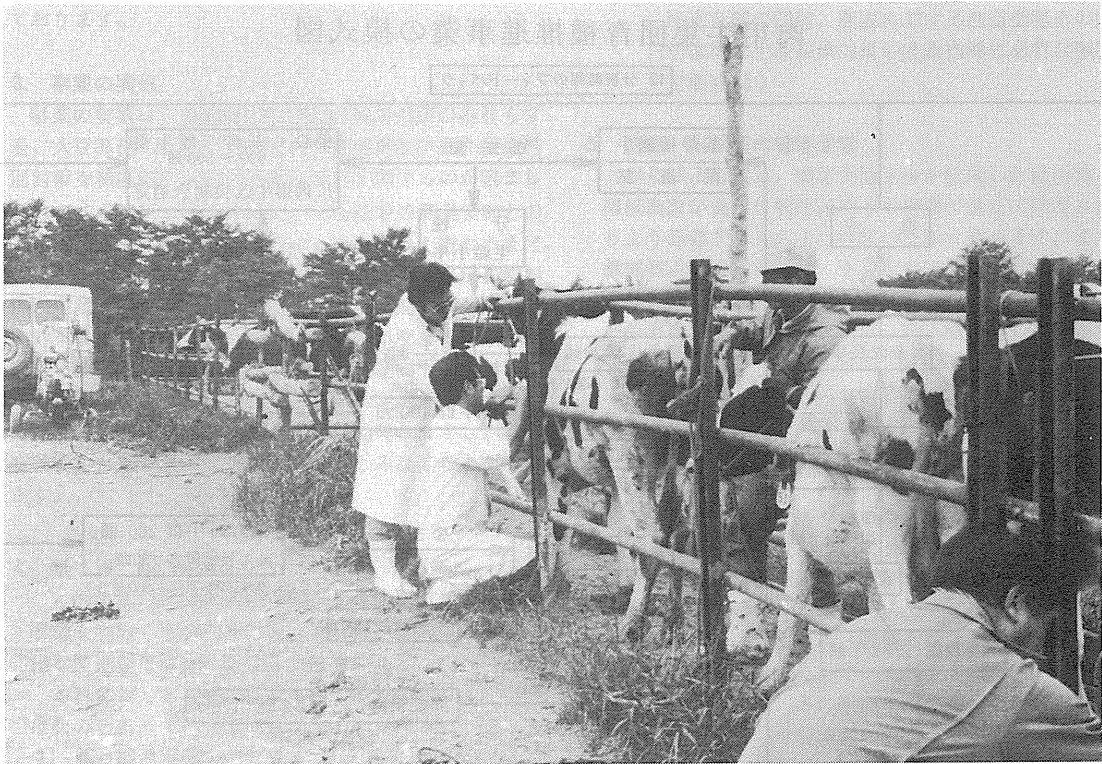
発行所
仙台市上杉一丁目2番16号

宮城県畜産会
電話 (62-9180)

編集発行人 大石 武一

定価 1部50円

印刷所 K K 東北プリント



放牧牛の健康検査 (栗駒町深山牧場)

もくじ

新たに肉用牛集団育種推進事業がスタート……	2
畜産物の市況……	3
社団法人宮城県畜産物価格安定基金協会の概要……	4
若柳町畜産経営環境整備事業の概要……	5
県有黒毛和種種雄牛の性能調査……	6
家畜共済事業の概要について……	7
自給飼料生産総合振興対策事業のあらまし……	10
随想……	12
人物紹介……	12

牛乳を飲んでる
食べてる健康一家

新たに肉用牛集団育種 推進事業がスタート

宮城県畜産課

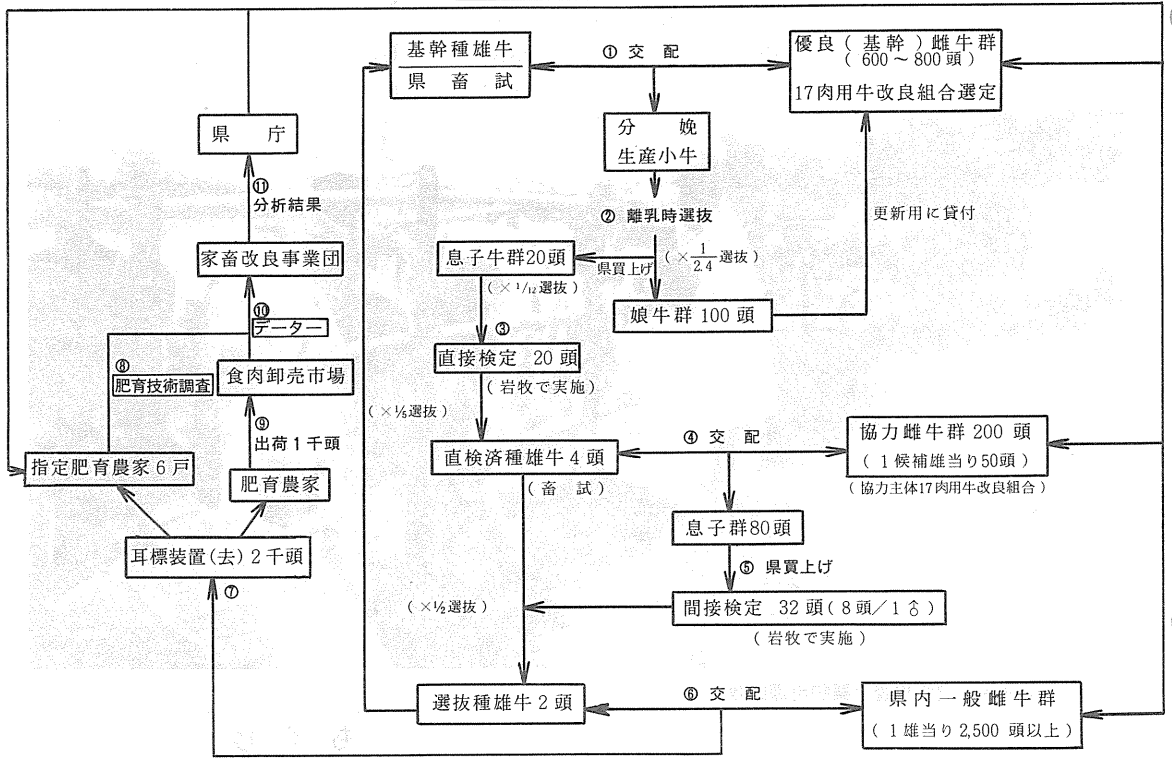
肉用牛改良を促進する施策として実施いたしております「肉用牛種畜生産基地育成事業」を継承する施策として、本事業が本年度から10カ年に亘り実施されることになり、本県においても和牛改良委員会で具体的実施方針の検討を重ね、次により実施することになった。

1 本事業のねらい

肉牛資源の不足基調と消費の著しい伸び等により、高価格を堅持しているが、反面経営をとりまく環境は厳しく、特に所得を左右する飼料用穀物に加え、オイル等の大幅な値上げが見込まれるなかで、外国産穀物への依存で進展して参りました経営技術体系の見直し、粗飼料の利用性に富む経済性の高い肉用牛の改良を促進しながら、国際的競争力を持ち消費者に好まれる牛肉生産をめざす肉用牛の安定的定着化が望まれるところであり、従来実施してきた「肉用牛種畜生産基地育成事業」で確立した改良体制及び改良手法で成果のあがらなかった、不備な検定内容を拡充強化して、科学的証明に基づく信頼性の高い種牛の選抜生産を行いながら、これらの種牛を改良

肉用牛集団育種推進事業の模式図

12 分析結果のフィードバック



畜産の総合商社

- 畜舎消毒装置 ミヤノスプレー
- 送風機 CAファン
- FRP(一輪車用) ミヤノーバケット



株式会社 **ミヤノ商事**

泉市南光台四丁目3番16号
TEL (0222)71-1054~5

雪印



つよ子牛乳



- ◎お宅までお届け致しまして48円
- ◎お申込みは最寄りの雪印牛乳販売店迄

基礎牛として供用するほか、一般肉用雌牛にも広く供用し、これら生産子牛を通して生産農家、枝肉卸売市場における飼育過程の管理技術、飼料の利用性、枝肉格付評価等を一貫して調査し、その調査資料を分析して、生産者はもとより関係団体等に選抜種牛の能力、飼育技術の問題点等を周知する改良推進体制を確立しながら、肉用牛を改良する。

2 本県における実施の仕組み

事業内容を大別すると、模式図に示す①から⑤までの種雄牛選抜事業と⑥から⑩までの産肉性調査事業を組合せた事業となっている、以下番号順に従って内容を照会すると、①から③まで従来実施してきた肉用牛種畜生産基地育成事業同様、優良肉用牛のなかから種雄牛、雌牛を指定し、指定牛間の交配で生産された子牛から優良な息子牛及び娘牛を県が買い上げ、息子牛は岩出山牧場で直接検定し、候補種雄牛4頭を選抜、娘牛は、母牛の更新用に貸付ける。この計画交配に指定する種雄牛は、県畜試繁養茂重波、武美福3号、安美1号、家畜改良事業団盛岡センター城芳14号、新稲田21号とし、血統上他の系統選定を要する場合、直接検定種雄牛で畜試育成中の追次、智茂も供用する、また優良雌牛は県内17認定組合の次の各号の条件を備えたもの800頭以上を指定する。

1. 認定組合員で本事業に全面的に協力する組合員の所有する本原登録牛又は高等登録牛
2. 体格審査区分の「資質、品位」「中軀」「肢蹄、歩様」の三部位中二部位の減率が普通以上で、尻腿の減率が普通以下でないもの
3. 特例として、改良組合設立以前の基本登録又は外部より導入した基本登録牛で指定検査時78点以上と認められ、2の条件に適合し、父母、祖父母共登録牛で父母の産子に遺伝的の不良形質が出現していないもの、④は、直接検定で選抜した候補種雄牛を畜試に保留育成し、1種雄牛当り50頭の雌牛の協力を得て交配し、その生産息子牛10頭を県が買い上げ、岩出山牧場で間接検定を行い、成績上位2頭を検定済種雄牛として選抜し、本事業の指定種雄牛として指定雌牛と計画交配を行うほか、⑥の一般雌牛に広く供用し、生産雄子牛に⑦のように種雄牛名を表示した耳標を装着する。(1種雄牛当り1千頭)これらの子牛は市場を経て県内外の肥育農家で肥育されるが、⑧に示すように県内肥育農家のなかから家保毎に1カ所を指定し、出荷されるまでの肥育内容を家畜保健所が指導調査し、その資料を⑩の家畜改良事業団コンピューターセンターに送付する、一方⑨に示すように県内外の肥育農家で肥育出荷された該当牛が、全国卸売市場で枝肉規格格付された成績が取り纏められ⑩のコンピューターセンターに送付され、その資料が分析される。そ

の分析結果が⑩のように県に送付され、県は⑫のように生産者、関係団体に公表しながら、改良、経営改善の指針に供する、そこでこの一連の事業を55年度から実施するため、本年度は⑤の間接検定を除く、①から⑧までの内容を実施するほか、間接検定牛舎、直接検定済候補種雄牛の保留育成牛舎を設置し、一連の実施体制を確立する。

なお、55年度⑤の検定息子牛を取得するため、④に供用する54年度種雄牛は、安美1号、智茂、重茂波、武美福3号とし、⑦の調査対象とする⑥に供用する54年度種雄牛は、茂重波、武美福3号の産子を対象に実施する。(家畜改良係 庄子)

畜産物の市況

種目	規格	単価	価格	摘要	
卵		1 kg	191円	卸売価格6月平均	
ブロイラー	A級	と体1kg	246	〃	
枝肉	上	枝肉1kg	759	〃	
	中	〃	691	〃	
牛	和牛メス	上	〃	2,028	〃
	〃ヌキ	上	〃	1,988	〃
	〃ヌキ	中	〃	1,717	〃
肉	乳牛メス	中	〃	1,457	〃
	〃ヌキ	中	〃	1,414	〃
和牛子牛		1頭	348,842	7月10日小什田市場	
子豚		〃	18,491	7月15日 〃	

卵、ブロイラー、豚肉、牛肉価格 …… 県経済連調べ
和牛子牛、子豚価格 …… 県畜連調べ

牛乳を

飲んでる

食べてる

健康一家

牧場用柵には
強くて美しくスマートな

東伸製鋼牧柵を!

製造元 東伸製鋼株式会社
仙台市一番町二丁目7-5 TEL 277053
販売元 塚本商事機械株式会社
仙台市花京院二丁目1 TEL 627771
代理店 本山振興株式会社
仙台市昭和町6番10号 TEL 346221

システム農業をクリエイトする

STAR

タフで働きものの
Mr 3000にチビの
Mr 2000が新登場



THB 2000

スター農機株式会社

仙台出張所 983 仙台市福田町2丁目4-20佐正ビル内
0222-58-7301

社団法人宮城県畜産物 価格安定基金協会の概要

(社)宮城県畜産物価格安定基金協会

本協会は、約70程の畜産を基幹とする農協の賛同をえて、昭和50年6月25日に総会がもたれ設立されました。当時はオイルショックの直後で畜産経営にとって危機感がただよっていたときでしたが、特に食肉価格の変動が大きく、そのため浮草の生産がつづき、そのことがまた価格の変動に影響し、安定した経営が中々望みえない時期でもありました。国には畜安法があって、一定の価格帯の中で取引されるよう措置がされてはいましたが、さらにその上に、生産農家がお互いに金を出しあって枝肉価格が安くなりすぎたときに補償しあうことで、一定の収益が維持でき安心して生産のできる経営がやれないものかどうかと、経済連や県を始めとする関係者の間で考え出され、組立てられました。その概要は、県を初めとする会員が基金(出資金)を出しあって組織を構成し、その果実で運営すると共に荷受機関、出荷団体、生産者が補償のための積立を行ない、その金と基金果実の一部で補償を行なうというものでした。そして約2年程の周到な準備のもとに設立されたものです。

1 協会の概要

ア) 所在地

仙台市上杉一丁目2番16号宮城県農協ビル6階、宮城県経済連畜産部に事務所がおかれています。

イ) 会員の構成

昭和54年6月末現在での会員は、宮城県、経済連、信連、共済連、宮城県くみあい飼料KK、東北くみあい飼料KK、市町村(仙台市以下54市町村)、農協(仙台市農協以下92農協)計152会員となっています。

ウ) 出資金(基金)

昭和54年3月末現在で、2,173口(1口10万円)217,300千円となっていますが、昭和55年度末までに約300,000千円の出資金となる予定です。

2 事業の概要

協会の事業は昭和50年10月1日から開始されましたが、3年を1事業期として仕事がすすめられていて現在は、第2事業期の第2年目ということになります。

ア) 事業のしくみ

会員農協である指定出荷団体が対象畜種の肉豚又は肉牛(和牛去勢・乳用牛去勢)を生産者の委託をうけて指定荷受機関である経済連を通じ出荷したものについて、その対象畜種の月間枝肉価格(肉豚上もの、肉牛中もの)の加重平均価格が、補てん基準価格を下廻った場合に、その月の契約数量を限度に、また、最低基準価格を限度として、一定の規格以上(肉豚中もの以上、和牛中もの以上、乳用牛並もの以上)のものに対し補てんするしくみです。なお、補てん財源は、生産者、指定出荷団体(農協)、指定荷受機関(経済連)で出しあった積立金と基金(出資金)の果実の一部があてられます。さらに、昭和54年度から肉豚について、その加重平均価格が一定の価格を上廻った場合に特別積立金の納入を生産者からうけ、補てんの財源や借入金の償還にあてられるようになりました。

イ) 補てんの実績

昭和50年10月の事業の開始から昭和54年3月末までの補てんは肉豚が主体で、51年度には11千頭余に対し18,648千円余の、53年度には55千頭余に対し165,171千円余の、また合計で86千頭余を対象に256,755千円余の補てん金が交付されました。ただ、肉牛は殆んどなく、昭和53年度に和牛144頭、乳用牛281頭に対し、1,593千円余が交付されたにすぎません。

ウ) 契約の概要

補てんの実績が反映し、昭和54年度の肉豚契約数量は133千頭をこえましたが、肉牛は和牛で1,329頭乳用牛で1,769頭にとどまりました。

3. 将来の課題

色々ありますが、先ず基金の充実をはかり、その果実を出来る限り補てん財源に廻らすこと、また、現在のように希望する会員が、希望する数量を契約するだけでなしに、会員農協が経済連を通じ出荷する対象畜種のす

画期的な家畜ふん尿処理用
めづまりのない

多板式固液分離機

- 生ふん脱水の決定版
- 公害防止に貢献
- 省力化に威力



株式 五十嵐商会

仙台市中央三丁目5番14号

TCM東洋キートン



糞尿処理工程のあらゆる局面で活躍。
畜産農家の近代化に
作業の省力化に大きく貢献します。
豊富なアタッチメント。

TCM東洋運搬機株式会社
東北ディー・シー・エム株式会社

983 仙台市日の出町3丁目9-35
電話 0222-95-5517・5511

べてが補てんの対象となるしくみに改めていくことが最大の課題であるといえましょう。

若柳町畜産経営環境 整備事業の概要

宮城県畜産課

畜産経営環境整備事業は、家畜のふん尿による畜産公害を未然に防止し、あわせて畜産経営の基盤の整備及び開発を行い、畜産経営の合理化を図ることを目的に国と県が補助金を出して行うものです。県では県畜産開発公社を事業主体に指定し、本事業を行っています。

事業の内容は現在、畜産経営を行っている所が家畜のふん尿の処理が困難で家畜を将来にわたって飼うことがむずかしい場合には、他の場所に施設用地を造成整備し道路、用排水施設、畜舎及び堆肥舎等を整備し移転することができます。また移転するほどではないが、ふん尿のたれ流しや堆肥の野積によって、周辺の人達から苦情がでている場合にも堆肥舎等を整備することができます。更に家畜ふん尿を堆肥化し、土地還元するための、ローダー、トラクター、堆肥運搬車、マニースプレッター、バキュームカー等の機械整備、土地還元のための道路、肥培かんがい施設、醗酵乾燥処理施設等も補助の対象となります。補助率は表1のとおりです。

表1

種 目	事 業 の 内 容	補 助 率
基盤整備	草地造成、施設用地造成、道路用排水施設、肥培かんがい施設	70%
施設整備	堆肥舎、尿溜、醗酵乾燥処理施設、畜舎、運搬機械等、格納庫、道路	施設 48.3% 機械 48.3%

本事業は県内では昭和48年に南郷町で始まったのが最初で桃生町、涌谷町とすでに3地区で実施し完了ないし継続しております。

54年度は若柳町で新規に始まりますので、今回若柳町

の本事業について、そのあらましを記したいと思います。

若柳町は宮城県北部の一部岩手県と境を接する農村地帯で、米作が中心ですが、畜産も非常に盛んで養豚と肉牛が中心です。

この地帯も畜産による悪臭、水質汚濁が苦情となり、移転を希望する畜産農家が多く、また畜産経営による環境汚染から環境を保全し、生活環境をより快適なものとするため本事業がとり上げられたわけです。

本事業は参加農家数204戸、うち畜産農家159戸、耕種農家45戸で受益面積は90haです。移転団地は9団地あります。

事業の内容は、総事業費538,000千円で施設用地の造成整備、農道整備、堆肥舎等の家畜ふん尿処理施設の整備を3年計画で実施します。これを表2に示します。

本事業を実効あるものとするために畜産農家ばかりでなく、耕種農家にも参加してもらい、堆肥化した家畜ふん尿を土地還元するわけですが、そのための組織一耕土培養組合もつくられて、各施設の共同利用、管理運営にあたることになっています。

以上本事業の概要について記しましたが、要は家畜のふん尿は、堆肥化等適切な処理により、土地還元していくことで畜産経営による環境汚染を防止するということです。

ふん尿処理は非採算部門で、金をかけたくないところですが、これからは環境の保全なくては畜産の発展はありえない、家畜ふん尿は資源であるという認識をもち有効利用することにより一層の畜産、耕種を包含した農業の発展を期待したいと考えております。

(環境整備係 佐々木)



ヒドロポンプ

ヒドロポンプのシステム

060

斎藤興業株式会社

札幌市中央区北5条西20丁目 電話(代)41-1122番

東北出張所

仙台市原町小田原安養寺下7-145

983

電話57-5348・57-0563

動物用薬品器材のことなら 古い伝統
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市上杉3丁目3-8

東北獣医薬品株式会社

TEL ☎ 7330・7338・7339

仙北営業所 登米郡迫町佐沼萩洗1

02202 (2) 2278-9

山形営業所 山形市小石川四丁目9-24

0236 (23) 9909・9900

古川営業所 遠田郡小牛田町字関根館野28

02293 (4) 2018-9

表2

(単位 千円)

事業項目	全体計画		第1年度(54)		第2年度(55)		第3年度(56)		備考
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
1. 基盤整備									
施設用地造成	1.25 ha	11,930	1.04 ha	8,790	0.21 ha	3,140			
道路	300 m	1,625	300 m	1,625					
用排水施設造成	5カ所	6,372	3カ所	3,717	2カ所	2,655			
特認道路	8,900 m	100,450	3,100 m	38,840	3,900 m	37,860	1,900 m	23,750	
諸経費		14,992		7,028		5,115		2,849	
小計		185,369		60,000		48,770		26,599	
2. 家畜排肥処理施設									
堆肥舎	21棟 1,347.5 m ²	53,495	12棟 766 m ²	30,365	5棟 223 m ²	8,865	4棟 358.5 m ²	14,265	
堆肥槽	13基 669.5 m ²	10,985	9基 461.5 m ²	6,110	4基 208 m ²	4,875			
尿貯溜槽	24基	865	12基	495	12基	370			
運搬機械等	120台	129,885	28台	28,893	50台	53,342	42台	47,650	
機械格納庫	7棟 305.3 m ²	11,960	4棟 183.1 m ²	7,270	2棟 82.2 m ²	3,100	1棟 40 m ²	1,590	
電気導入	820 m	1,470	250 m	379	570 m	1,091			
畜舎	15棟	156,420	4棟	52,525	11棟	103,895			
諸経費		37,503		13,963		18,764		4,776	
小計		402,583		140,000		194,302		68,281	
計		587,952		200,000		243,072		94,880	

〈畜試便り〉

県有黒毛和種種雄牛の性能調査

茄子川 重晃

1. 調査の目的

県内の肉用牛種畜生産基地における指定雌牛に県有黒毛和種種雄牛を指定交配し、生産された子牛を素材として種雄牛の性能調査を行ない、今後の黒毛和種改良の基礎資料を得るものである。

2. 調査方法

県内8ヶ所の肉用牛種畜生産地の基礎雌牛200頭及びそれより生産された子牛140頭を調査材料とし、主な調査項目は、両親の系統、子牛の生時体重、体型、資質などである。これらは肉用牛種畜生産基地育成事業指定台帳をもとに分析調査したものである。

3. 調査結果の概要

(1)指定雌牛の系統別頭数の推移

指定雌牛の年次別頭数の推移及び系統別頭数とその割合は、表1に示したとおりである。開始時(昭和45年度)


は5系統に分散されていたが53年度は兵庫、広島系統が88.5%を占めている。

表1 指定雌牛の年次別頭数の推移及び系統別頭数とその割合

年次項目	系統	系統					計
		兵庫	広島	岡山	鳥取	その他	
45	頭数	42	75	28	35	20	200
	%	21	37.5	14	17.5	10.0	100
50	頭数	51	74	30	32	13	200
	%	25.5	37	15	16	6.5	100
52	頭数	72	92	11	18	7	200
	%	36	46	0.55	0.9	0.35	100
53	頭数	78	95	12	4	11	200
	%	39	47.5	0.6	0.2	0.55	100

(2)昭和52年度指定雌牛の産地別割合(県内産も含む)

昭和52年度指定雌牛の産地別割合を地域別に見ると表2のとおり、兵庫は小野田町、宮崎町、栗駒町に、広島は小牛田町、南郷町、田尻町、迫町に多い割合をしめており、南方町は4県(兵庫、広島、岡山、鳥取)に分散されていた。




いつもフレッシュ!!

明治牛乳

明治乳業

酪農協の牛乳!

全酪牛乳



全国酪農協同組合連合会(全酪連)

小牛田工場 遠田郡小牛田町牛飼38

TEL 02293-3-2211-3

(3)交配と生時体重

県有黒毛和種種雄牛別生産子牛生時体重は表3に示したとおりである。

2頭の種雄牛について、兵庫系×兵庫系の産子牛64頭(雌28頭雄36頭)、兵庫系×広島系の産子牛76頭(雌42頭雄34頭)計140頭の生時体重について調査した結果、種雄牛間には一定の傾向はみられなかったが、系統別生産子牛の平均体重は、兵庫系×広島系で雌が27.2±2.4kg、雄が29.4±2.8kg、兵庫系×兵庫系で雌が25.0kg±2.2kg、雄が26.9±3.6kgであり、広島系の母牛から生産された子牛の方が雌雄ともに10.8%大きかった。

表2 昭和52年度指定雌牛の血統割合の推移

指定町	産地	血統割合					計
		兵庫	広島	岡山	鳥取	その他	
小野田	頭数	18	-	2	-	-	20
	%	90.0	-	10.0	-	-	100.0
宮崎	頭数	29	4	2	2	3	40
	%	72.5	10.0	5.0	5.0	7.5	100.0
小牛田	頭数	1	18	1	-	-	20
	%	5.0	90.0	5.0	-	-	100.0
南郷	頭数	-	25	-	-	-	25
	%	-	100.0	-	-	-	100.0
田尻	頭数	3	18	1	3	-	25
	%	12	72	4.0	12	-	100.0
栗駒	頭数	11	5	-	3	1	20
	%	55.0	25.0	-	15	5.0	100.0
南方	頭数	6	9	4	4	2	25
	%	24	36	16	16	8.0	100.0
迫	頭数	4	13	1	6	1	25
	%	16.0	52.0	4.0	24.0	4.0	100.0
計	頭数	72	92	11	18	7	200
	%	36.0	46.0	5.5	9.0	3.5	100.0

(4)交配と体型資質

離乳時における県有黒毛和種種雄牛と系統別母牛との交配により生産された子牛の体型、資質は表4に示したとおりである。すなわち兵庫系×兵庫系の産子牛22頭、兵庫系×広島系の産子牛80頭計52頭の離乳時における体型、資質について比較してみると兵庫系×兵庫系の生産子牛は、品位、資質、皮膚、被毛等優れているのが多く、兵庫系×広島系の生産子牛では体積、均称、腿張りのよい子牛が比較的多い傾向がみられた。

4. まとめ

今回の調査においては、例数が少く、今後は更に例数

表3

県有黒毛和種種雄牛別生産子牛生時体重の比較

(51~52年)

項目	生産された性別 乳牛の系統別	雌子牛		雄子牛	
		兵庫系	広島系	兵庫系	広島系
		富光	頭数	14	28
(兵庫系)	体重±偏差	24.9kg ±2.1kg	27.6kg ±2.0kg	27.4kg ±4.7kg	29.7kg ±3.2kg
茂重波	頭数	14	14	19	14
(兵庫系)	体重±偏差	25.1kg ±2.3kg	26.5kg ±3.1kg	26.6kg ±2.4kg	29.1kg ±2.3kg
計又は	頭数	28	42	36	34
平均	体重±偏差	25.0kg ±2.2kg	27.2kg ±2.4kg	26.9kg ±3.6kg	29.4kg ±2.8kg

表4

県有黒毛和種種雄牛(兵庫系)と系統別母牛(兵庫系・広島系)との交配により生産された子牛の体型、資質の比較

系統交配別	体型・資質		体積・均称		品位・資質		腿			被毛・皮膚	
	A	B	A	B	A	B	A	B	C	A	B
兵庫×兵庫	頭数	16	6	20	2	1	21	0	20	2	
	%	72.7	27.3	90.9	9.1	4.5	95.5	0	90.9	9.1	
広島×広島	頭数	22	8	25	5	6	23	1	18	12	
	%	78.3	26.7	83.3	16.7	20.0	75.5	4.5	60.0	40.0	

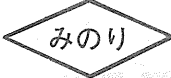
注① 51年度の調査成績である。

② 表中ABCランクは和牛登録協会の能力指数に基づく。

を増やし、多角的な面から検討を加える必要がある。また現状においては、農家の子牛生産に対する性格を明確にし、繁殖雌牛の系統と種雄牛の系統を考慮の上、集団的な計画生産を図るべきである。

本調査を実施するに当たり、種々貴重な御助言をいただいた東北大学農学部教授水間豊氏、ならびに関係資料を快よく貸与していただいた東北大学、県畜連の関係者に謝意を表する。

(研究第1部肉牛科長)

飼料は  みのり

採卵鶏用配合飼料
ブロイラー用配合飼料
肉牛用配合飼料
乳牛用配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号
TEL石巻 02252(5)4171~4

畜産公害を追放する

家畜糞尿処理工事
さく井工事 畜舎工事
ポンプ工事 設計・施工
水処理工事

株式会社 北辰技術

仙台市鉄砲町18番地
電話(0222)(93)2461

家畜共済事業の概要について

宮城県農業共済組合連合会

1. 家畜共済の加入状況

本県の家畜共済事業も関係者のご指導とご協力を賜わり、年々順調に進展しておりますことお礼申し上げます。

昭和53年度は、組合等の共済責任保留第2年度に入ったことから、家畜共済事業の実質的な収支の安定と、補償の充実をはかるため、特に乳牛の加入と、共済金額の引上げを重点として推進した結果(表1)のとおりで加入頭数は大家畜81,173頭、豚5,752頭、総共済金額141億54万円、大家畜1頭平均17万2千となり補償も充実しつつありますが、種豚、肉豚共済の加入については尚一層制度の普及と推進に努めなければならない。

(表1) 年次別加入頭数及び1頭平均加入額

年度	乳用牛		肉用牛		馬		計		豚	
	加入頭数	1頭平均	加入頭数	1頭平均	加入頭数	1頭平均	加入頭数	1頭平均	種豚	肉豚
49	24,056	104.1	46,289	133.1	351	147.7	70,646	123.3	619	頭
50	23,920	114.6	45,880	140.6	305	160.9	70,105	131.8	534	-
51	24,468	123.8	48,545	152.3	241	181.5	73,254	142.3	546	-
52	25,646	134.0	51,271	169.0	206	201.0	77,123	157.6	609	1,547
53	27,275	145.4	53,698	185.2	164	249.7	81,137	172.0	3,295	2,457
前年比	1,629	11.4	2,427	16.2	△42	48.7	4,014	14.4	2,636	910

2. 死亡廃用事故の発生状況

近年家畜の多頭化、肥育経営の大型化にともない、個体ごとの飼養管理がおろそかになりがらで、省力化の悪い面が目立ち、死廃事故も増加の傾向にあります。家畜共済制度は、このように畜産農家が不慮の事故によって受ける損害を補償することと、損害の未然防止をはかることを目的としており、制度本来の使命が果されているものと思われま。

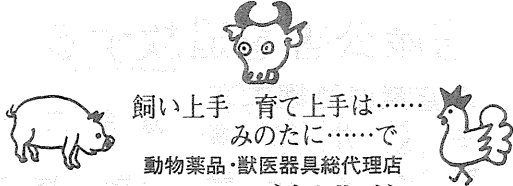
これらの事故に対処するため、各地区毎に関係機関、団体等の協力を得て設置した家畜事故対策協議会が中核となり、それぞれ地域の実態に応じた指導により成果をあげておりますが、畜産指導の関係者がより積極的な事故防止に取り組んで頂かなければこれ以上の事故低減はむずかしいものと思われま。

(家畜課 加藤)

最近の死亡、廃用事故の発生状況は(表2)のとおりで50年、51年と減少の傾向にあったが、52年から増加しつつある。

病類別発生割合は(表3)のとおりであるが、乳牛では、産前(後)起立不能症、骨折脱臼、関節炎、心膜炎が多く、肥育牛では肺炎、尿石症、骨折、脱臼、中毒となっている。死廃事故の47%が死亡事故でその40%は治療を受けないまま死亡している等、観察の不足が目立っている。





飼い上手 育て上手は……
みのたに……で
動物薬品・獣医器具総代理店
株式会社 美濃谷

本店 山形市蔵王成沢字町浦491~2 TEL883121
山形店 山形市山田字羽黒堂5番216 TEL454306
仙台店 仙台市大文字東通り57~1 TEL240963
鶴岡店 鶴岡市大字布目字東通り57~1 TEL240963
いわき店 いわき市常磐湯本栄田3 TEL0246440300

こくておいしい大型びん……

森永 ハイクラウン牛乳

宮酪乳業株式会社

仙台市一番町2-4-28
TEL(代)23-9101

(表2) 年次別死亡廃用事故頭数及び支払共済金

年次	畜種		乳用牛		肉用牛		馬		計			事故率	
	頭数	1頭平均	頭数	1頭平均	頭数	1頭平均	頭数	1頭平均	頭数	支払共済金	1頭平均	頭数	支払額
49	980	91,308	1,072	105,358	18	120,175	2,070	204,589,586	98,835	2.93%	2.35%		
50	931	88,292	980	108,560	24	132,618	1,935	191,576,903	99,006	2.76%	2.07%		
51	856	101,378	984	116,638	10	129,900	1,850	202,849,749	109,649	2.53%	1.94%		
52	1,031	104,849	1,079	127,789	14	164,786	2,124	253,445,242	119,324	2.75%	2.09%		
53	1,199	117,180	1,298	142,129	18	128,172	2,515	327,290,746	130,135	3.10%	2.35%		
前年比	168	12,331	219	14,340	4	△36,614	391	73,845,504	10,811	0.35%	0.26%		

(表3) 昭和53年度死廃事故病類別発生状況

乳用牛

病類	地域	地域										計	前年同期	増減
		白石	角田	名取	大衡	古川	小牛田	築館	迫	石巻	計			
加入頭数		5,438	2,836	3,090	668	5,291	1,001	2,641	3,869	2,441	27,275	25,646	1,629	
1 産前産後起立不能		19	15	25	3	18	6	19	29	23	157	134	23	
2 骨折・脱臼		43	10	24	7	34	9	13	4	14	158	127	31	
3 関節炎		16	4	8	2	13	6	1	7	3	60	45	15	
4 心膜炎		15	4	7	3	9	10	4	2	5	59	40	19	
5 第四胃変位		13	4	7		16	3	6	4	5	58	57	1	
6 鼓脹症		8	4	3	1	9	3	7	4	6	45	46	△1	
その他		105	62	98	9	135	38	70	76	69	662	582	80	
計		219	103	172	25	234	75	120	126	125	1,199	1,031	168	
事故発生率(%)		4.0	3.6	5.6	3.7	4.4	7.5	4.5	3.3	5.1	4.4	4.0	0.4	
前年対増減(%)		0.2	0.9	0.6	0.7	△0.2	0.1	0.8	-	0.9	0.4	-	-	

肉用牛

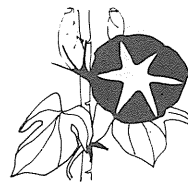
病類	地域	地域										計	前年同期	増減
		白石	角田	名取	大衡	古川	小牛田	築館	迫	石巻	計			
加入頭数		5,336	1,327	3,950	4,272	9,366	5,514	6,827	10,960	6,146	53,698	51,271	2,427	
1 肺炎		51	7	17	14	42	18	23	30	73	275	161	114	
2 尿石症		26	2	15	3	20	20	14	7	18	125	133	△8	
3 骨折・脱臼		27	3	6	8	12	12	10	11	19	108	115	△7	
4 中毒		12	5	4	9	16	3	3	15		67	32	35	
5 胃腸炎		7	3			9	2	10	21	12	64	66	△2	
6 日射病・熱射病		9	1	5	1	1	1	4	6	2	30	7	23	
その他		103	8	48	38	82	78	53	105	114	629	565	64	
計		235	29	95	73	132	134	117	195	238	1,298	1,079	219	
事故発生率(%)		4.4	2.2	2.4	1.7	1.9	2.4	1.7	1.8	2.9	2.4	2.1	0.3	
前年対増減(%)		0.9	0.7	0.7	-	-	△0.9	-	0.5	0.2	0.4	-	-	

健康な家畜は畜舎の清浄から
 - 扱いやすく、効果の大きい -

※スプレー式 くみあい畜舎消装置

※殺菌消毒剤 くみあいエンピロン

農協・宮城県経済連・全農



自給飼料生産 総合振興対策 事業のあらまし(1)

宮城県畜産課

I はじめに

米の生産が過剰である一方、増産の必要な麦、大豆、飼料作物等の生産が十分でないのが農業生産の現状であります。

このような現状をふまえ需要の動向に適切に対応する農業生産構造を確立するためには、意欲的に農業に取り組む者に農用地利用の集積を図りつつ、これを中核と

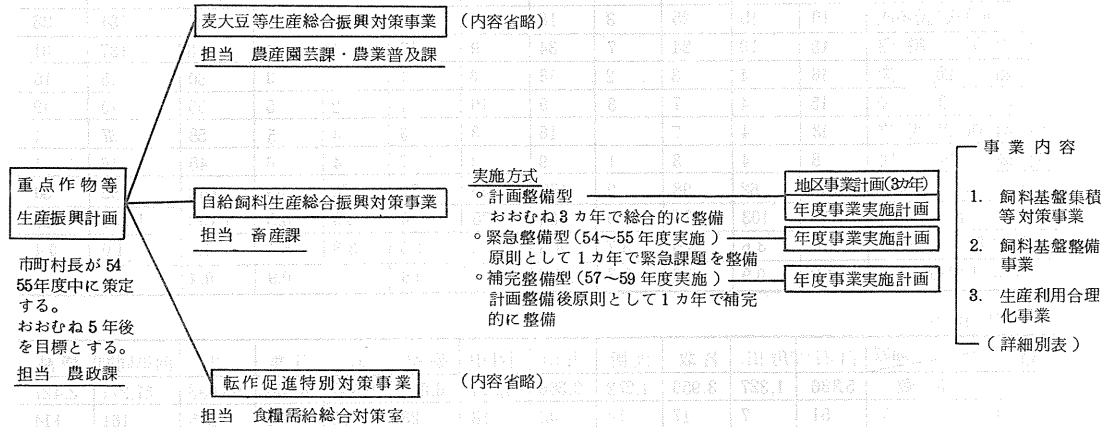
して、地域の実態に即した農業生産の再編成を図る必要があります。

そのため、地域の実態に即して農業生産にたずさわる人々の自主性と創意工夫を生かしつつ、麦、大豆、飼料作物、てん菜及びそばを重点作物として3つの対策がたてられました。

その1つは、麦、大豆等生産総合振興対策であり、その2は自給飼料生産総合振興対策、その3は転作促進特別対策であります。これら3つの対策で構成された総合的な事業が、地域農業生産総合振興対策事業(生産総合)であります。

生産総合の事業内容は、すなわち3対策の事業内容であります。この事業を実施するには、重点作物等生産振興計画を市町村において策定する必要があります。

計画策定から事業実施までの関連を示したのが次の図であります。



II 自給飼料生産総合振興対策事業

この事業は、昭和53年度から実施された自給飼料生産向上特別対策事業を母体とし水田裏飼料作物生産集団育成対策事業を拡大強化して加え、さらに新しい事業種目が追加されております。

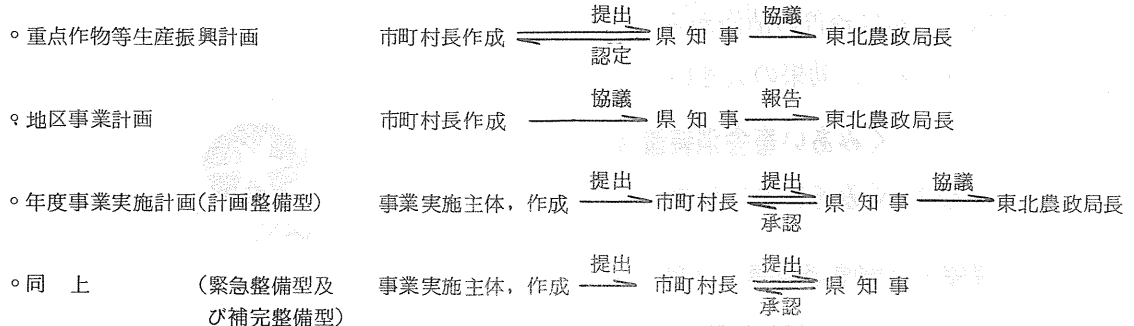
1. 事業実施対象地域及び実施地区

事業を実施する対象地域は、重点作物等生産振興計画

を策定した市町村の区域であります。また、当分の間(約2年間)は緊急整備型により事業を実施する場合や、重点作物等生産振興計画を策定した市町村の範囲を越えて計画整備型により事業を行う場合には、生産振興計画が未策定の市町村の区域を事業の実施対象地域に含めることができます。

また、事業の実施地区は前述の対象地域内で旧市町村

計画の提出・協議手続き



(町村合併促進法「昭和28年法律258号」施行による合併以前の市町村)の範囲で実施できます。

事業の実施に当たっての計画や策定や提出、協議等の手続きは図示したとおりです。

2. 事業の実施期間

事業の実施方式により決められており、計画整備型では原則として3カ年、緊急整備型及び補完整備型は原則として1カ年となっておりますが、飼料作物生産集団育成事業及び飼料作物等流通促進事業では、2カ年となっております。

3. 事業の実施

事業の実施は、自給飼料生産総合振興対策のみならず麦、大豆等他の重点作物の生産振興対策及び転作促進特別対策を積極的に取込んで総合的に実施するのが望ましいのですが、昭和54年度については従来の事業実施との関連もあり3対策を取込むのはレアケースと思われます。

また、経過措置として昭和53年度において水田裏飼料作物生産集団育成対策事業、または自給飼料生産向上特別対策事業を実施し、昭和54又は55年度まで事業を継続する地区と昭和53年度に自給飼料生産向上特別対策事業の基本計画を策定し54年度から事業実施を予定していた地区は、実施地区として事業が実施できますし、53年度策定した基本計画は地区事業計画とみなすことができます。

4. 推進指導

この事業は各作物の総合的な生産振興対策を策定し事業を実施しますので、県、市町村、農業団体等の密接な推進指導体制が必要とされます。

これに対しては助成措置も講じられておりその内容は次のとおりであります。

1) 総合推進指導

ア. 県が行うもの

推進協議会の開催、市町村の計画作成に関する指導、事業実施に関する指導、技術問題に関する指導、事業の啓発活動その他事業の総合的な推進指導に必要な事項。(1/2以内補助)

イ. 県農協中央会が行うもの

推進協議会の開催、農協等に対する濃密指導、その他事業の総合的な推進指導に必要な事項。(定額補助)

ウ. 市町村が行うもの

推進協議会の開催、現地調査、指導、診断、計画書の作成、その他重点作物等生産振興計画の樹

立に必要な事項。(1/2以内補助)

2) 重点作業等に係る特別推進指導(自給飼料)

ア. 県が行うもの

推進協議会の開催、技術問題検討会の開催、現地指導その他自給飼料の生産振興対策の推進指導に必要な事項(1/2以内補助)

イ. 市町村が行うもの

集落推進協議会の開催、地区事業計画の作成、その他自給飼料の生産振興対策の推進指導に必要な事項。(1/2以内補助)

ウ. 県畜産会が行うもの

推進協議会の開催、農協に対する推進指導その他自給飼料の生産振興対策の推進指導に必要な事項。(定額補助)

5. 機械、施設等の管理運営

県及び市町村は、事業実施主体が整備した農用地、機械施設が適正に管理運営され事業が適正に推進されるよう指導するとともに状況の把握に努めます。また、機械施設の管理運営は、事業実施主体が市町村の場合には農協又は営農集団(農事組合法人、農業生産法人、その他農業者の組織する団体。法人格を有しない場合は、代表者並びに組織運営についての規約があること。)に委託できますし、農協の場合には営農集団に管理運営を委託することができます。

6. 事業の内容等

先にも述べました通り自給特対事業を引き継いだものでありますので変った点についてのみ詳述します。

1) 飼料作物生産集団育成事業

ア. 事業実施主体の要件

ア) 飼料作物の栽培、収穫及び調製の全部又は一部の作業を受託している農業者の集団。

イ) 期間借地、その他の土地集積により飼料作物の生産を行う農業者の集団。

ウ) ア)及びイ)により飼料作物の生産を行う農業者の集団。

イ. 補助金交付のための確認方法

ア) 事業実施主体の要件確認は、作業受託契約書又は借地契約書等の書類による。

イ) 飼料作物作付面積の確認は、現地見廻り及び不動産登記簿、固定資産課税台帳、土地台帳、農業共済細目書、占用許可書、作業受託契約書、借地契約書等の書類による。

ウ) 確認は市町村長が行う。この場合県知事は市町村長に協力する。

つづく

(草地飼料係 阿部)



牛乳よ！おまえもか！

「米の生産調整だ！」「それ消費拡大だ！」と論じられて時は久しい。学校給食に、「諸会議の昼食は米飯を！」と関係者のPR努力は続く。にもかかわらず一人当りの消費量は年々下降線を辿っている。

こんどは牛乳が過剰だと言う。「このままでは米の二の舞だ」と例によってマスコミはとり上げる。そしてこの対策として中央酪農会議は、全国の生産者に呼びかけ生産調整を決めた。やっぱり「牛乳よ、おまえもか」と思いたくなる。

牛乳の消費が一般化したのはここ三十余年である。その前は菓の領域、栄養剤として病人用に利用され、牛乳が配達される家は結核患者とか病弱な幼児がいて世間ていが悪かったものである。値段も高く、消費量も極めて少ない。牛乳屋さんは生産から処理、配達までの一貫経営で仕事も朝早くから夜おそくまで大変忙しく、けっこうもうかる商売であった。それが最近では米、パンに次ぐ食糧だと言う。大変に栄養が豊かでバランスのとれた食品だと関係者は宣伝に懸命である。酪農家まで「月きめ牛乳券」をセールスしている昨今である。関係者の一人としてこれらの努力には頭の下る思いである。

我が国の牛乳消費量は一人年間150本程度で一日にして普通コップ半分位である。イギリスの五分の一、アメリカの四分の一と消費量は少ない。欧米と異なって、国民生活の中に牛乳が飽和の状態に近くなったと考える人は誰もいない。現に毎年消費量がのびているのではない。特にこの頃は連日の暑さで今までの余り状況から一変し、県内の生乳が飲用に不足を生じ、関係者を慌てさせている。こんな事では牛乳が食生活に定着しつつあるなどと考えるたくもない。他の清涼飲料水と同じかと疑い

たくもなる。しかし、この頃はその内容が少しずつ違って来たように感じられてならない。やはり牛乳は他の飲料水と異なって価格も比較的安く「夏ばて予防」に大変良い飲用食品であることが認識されて来たことである。「かっこいい飲料水よりも牛乳を」と世の中が感じて来たのかも知れない。高校のクラブ活動に、むし暑いビル内の体力保持に、毎日の飲用が制ガンに効果あるとか、この頃の牛乳は関係者の努力によって大変おいしくなるとか、私達に関係のない方々から聞かされてうれしく感じている。やっぱり牛乳の良さが徐々に認識されて来たのかも知れない。

また、外食産業の進展が著しいそうである。月に一回以上家族なり友人なり職場の同志がレストラン、温泉旅行で外食する人達がずいぶん増えているのである。そこに牛乳の入った料理を広めてほしいものと思う。今までのインスタントからほんものの料理の普及である。そこには牛乳本来の「コクのある」あの味をスープなりいろいろの料理の中から一人一人に知ってもらうことである。そしてこの味が、料理が、一家団らの家庭に、若妻の自慢料理に移行して行くならば欧米と違った日本の料理献立の中に定着して行くものと思う。

日本の所得の三分の一にも達しない共産圏のユーゴーに短日間旅行したことがある。この国では夏より冬に飲用牛乳の消費量が高いと説明を受けた事を思い出す。寒い冬の日に暖かい牛乳入りのスープ、シチュー料理が家庭に普及しているからだそうである。

「夏ばて予防用牛乳」から「寒い冬の暖かいスープ料理」と広く普及発展していくことを切望したい。そして我が国の牛乳が利用されてから半世紀たらず、まして乳牛がこれからの牛肉として大衆に広く消費されることになれば、両者相俟って酪農の位置づけは強固にして前途洋々たるものが感じられる。

一時的な生乳生産の調整で驚くことなかれ！ それよりもほんものの、そしてこれからの酪農経営を考えて見る時期かも知れない。「牛乳よ、おまえもか？ 絶対にこうあってはならない事である。一寸考えさせられるこの頃です。」
(鹿又久雄)

人物紹介

小野寺 君男氏

(経済連畜産部長)



氏は、畜産部審査役、生活資材部長を歴任後昨年2月畜産部長に就任され、きびしい畜産情勢の中で、県下畜産農家の経営安定と系統農協の畜産事業発展のために奮闘されています。その人となりは、質実剛健にして仕事

に対する強烈な情熱の持ち主です。農協職員のサラリーマン化がいわれる中で、後輩に対する影響力は大へんに大きく、信望をあつめています。一昔前、マラソンのザトベックが「人間機関車」の異名をとりましたが、まさに、経済連の「人間機関車」といえそうです。

趣味は、多彩ですがその中でも特にマージャンは名手と言われ、この面でも後進の指導にあたっておられるようです。農業の再建が叫ばれ、転作が実施される中で、畜産事業の重要性はますます大きくなっていますが、持ち前の馬力で本県畜産の強化発展に奮闘されるようお祈りいたします。